

東教育財団だより

発行所
公益財団法人
東教育財団

大阪市中央区南本町
2丁目2番11号
堺筋本町西尾ビル6階

電話06(6262)7363

発行責任者 北井保行

令和五年度に助成した事業を紹介します

東教育財団では、大阪市中央区内の学校教育並びに社会教育の育成と地域文化の振興に寄与するため、学校教育活動並びに社会教育団体等が行う社会教育活動、生涯学習活動及び地域文化・まちづくり活動に助成を行っています。

令和四年度までは、新型コロナウイルスウィルス感染拡大予防措置等により助成対象事業を中止又は変更し、助成金の返還を申し出る団体がありました。五年度は、このような団体はなく、昨年四月の助成決定のとおり、七九件、総額一、四九〇万七千円の助成を行いました。

助成金の種別ごとの助成件数・金額、助成対象事業の具体例は次のとおりです。

学校教育事業助成

中央区内の幼稚園、小学校及び中学校に対して、二二件、総額五八六万円の助成を行いました。

「地域の未就園児との交流活動に関する事業」



（「なかよしデー」での玉入れ風景）

中大江幼稚園では、地域の未就園児やその保護者が在園児と交流することで、在園児には優しさや思いやりの気持ちを育み、保護者には幼稚園の雰囲気や活動内容を知ってもらうために、園庭を開放し、プールでの水遊びや運動会（こっこ）など未就園児や保護者が在園児と触れ合って遊ぶ「なかよしデー」を開催しました。

（助成額二〇万円）

「豊かな心を育む

行事に関わる活動」



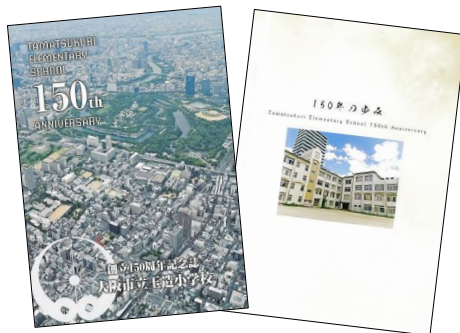
（蕪の収穫風景）

桃園幼稚園では、相手を思いやる気持ちや、命の大切さを感じてもら

うなど豊かな心が育むよう、園庭での雪遊びなど季節ごとの遊びや、畑や花壇に季節の草花や野菜を植え育てる取組、習字の基礎を体験する書道遊びなどを行いました。

（助成額二〇万円）

「創立二五〇周年記念事業」



玉造小学校では、創立一五〇周年を記念して、学校の一五〇年の歩みや現況に加えて、玉造地域の歴史や地域活動、PTA活動なども掲載した記念誌を作成し、全校児童に配付しました。

（助成額四五万円）

社会教育事業助成

社会教育団体に対して、一〇件、総額一九五万円の助成を行いました。

「ひとり親家庭の自立支援事業」



(芋ほり体験風景)

中央区母と子の共励会では、「高野山供養塔参拝」を実施したほか、都立育ちの子ども達に収穫体験事業として、「芋ほり体験」や「いちご狩り体験」、子どもから高齢者まで参加できる事業として「ボウリング大会」を開催し、ひとり親家庭が親睦を深め、共に悩みを相談し、情報交換等を行うための機会を提供しました。

(助成額)二五万円

生涯学習事業助成

生涯学習団体に対して、五件、総額五〇万円の助成を行いました。

「中大江小学校」

生涯学習ルーム事業

中大江小学校生涯学習ルーム運営委員会では、「フラワーアレンジメント」、「やさしい習字」、「チョークアート」等八講座を開催し、高齢者を含む大人も子どもも共に学び、交流を深めるための場を提供しました。(助成額二〇万円)



(「フラワーアレンジメント」講座風景)

地域文化事業助成

中央区内の地域文化の振興に寄与する事業を行う団体に対して、二八件、総額三三九万七千円の助成を行いました。

「船場博覧会二〇二三」および

「春の船場博覧会二〇二四」



(おひなさま展風景)

船場博覧会実行委員会では、船場の魅力を伝え、より魅力的なまちづくりを進めるため、「船場博覧会二〇二三」および「春の船場博覧会二〇二四」を開催しました。「船場博覧会二〇二三」(十一月十六〜二三

「中央区バリアフリー上映会」

日開催)では、芝川ビルなど北船場各所を会場に講演会やワークショップを開催し、まちあるきツアーなども実施しました。「春の船場博覧会二〇二四」では、船場の旧家に残る立派な雛飾りを芝川ビルなど近代建築に展示するとともに、ワークショップ等を開催しました。(助成額一五万円)



HANDSちゅうおうでは、年齢や障がいの有無を問わず、すべての人が映画を楽しめるよう、副

音声の音声ガイドと字幕付きのバリアフリー映画「さかなのこ」の上映会を開催しました。また、会場後方では、中央区内の障がい者支援団体四事業所の紹介ブースを設け、障がい者理解を深める機会としました。
(助成額十二万円)

「e-yo」逍遥|OIII&e-yo|ソーシャルカレッジ」



「橋と水辺と建築と」講座風景

東横堀川水辺再生協議会では、一年を通じて、東横堀川界隈のミュージアムや老舗等と協力し歴史や文化、自然体験など様々な魅力を楽し

むイベント「e-yo」逍遥」や、まちにゆかりの講師を招き地域の様々な魅力について学ぶ講座「e-yo」ソーシャルカレッジ」を実施しました。
(助成額一五万円)

地域まちづくり事業助成

中央区内の地域まちづくりの振興に寄与する事業を行う団体に対して、一五件、総額二〇〇万円の助成を行いました。

ふれあい事業「いきいき教室」



開平校下東社会福祉協議会では、地域住民の交流と地域の活性化を図るため、「いきいき教室」として、コーラス、日舞、茶道、着付けの各教室を開催しました。また、各教室の活動を発表する場として、七月に「あさがおフェスタ」を開催しました。
(助成額二〇万円)

「第一七回南大江地域文化祭 南大江たんぼぼの会」



南大江たんぼぼの会では、南大江地域住民の親睦を図り、世代間交流と地域文化の向上をめざして、十二

月三日に南大江小学校で第一七回南大江たんぼぼの会を開催し、絵画・書道・手芸等の作品展示と、コーラス・楽器演奏・チアダンス・民謡踊り等の舞台発表を行いました。
(助成額十三万円)

訃報

富樫龍健 相談役

七月四日(逝去
平成九年から令和五年まで理事、この間、会計理事通算十三年、審査理事四年務められ、理事退任後は相談役に就任

橋本英男 会計理事

八月二十七日(逝去
平成十九年から二十七年まで評議員、二十七年から理事、令和五年からは会計理事に就任

心からご冥福をお祈り申し上げます。

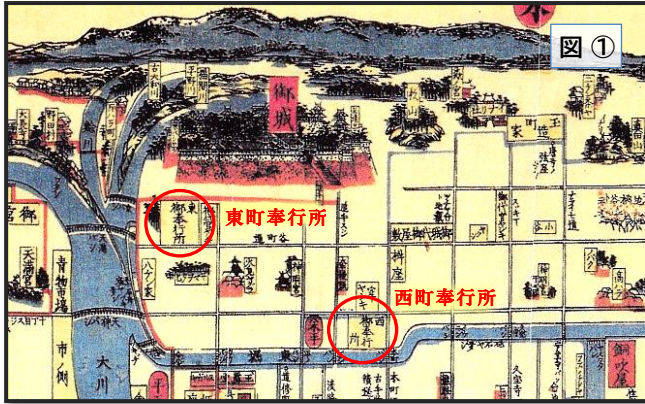
「大坂・西町奉行所と府立大阪博物館

そして住友家のかかわり」(前編)

秀吉が築城し、淀殿、秀頼の居城となっていた豪華絢爛な大坂城は「大坂冬の陣」「大坂夏の陣」で落城し豊臣家も滅亡する。その後、幕府直轄の天領となった大坂城は二代將軍徳川秀忠により九年を要して徳川の大坂城が再建された(大阪の市民は現在の大坂城を太閤秀吉が築城したと思ひ込んで

いる人が大半と
 思ふ)。さて、大坂城は徳川將軍から任命された譜代大名が城代を務め西国を統治した(一時、家光家茂、慶喜も居城していた)。天領となった大坂は元和五年(一六一九)城下京橋口に東町、西町の二奉行が設置され月替わりで執務した。しかし、東西両奉行は享保九年

(一七二四)三月の大火(享保の大火・妙知焼け)で焼失したことに
 により、危険回避のため西町奉行所を東横堀川本町橋際の御塩増蔵跡に再建し、(図①参照)警務、裁判を司るようになった。西町奉行所は大政奉還後、明治維新に入って大阪鎮台官舎所から大阪裁判所となり、明治元年(一八六八)五月には大阪府庁となった。しかし、この府庁舎も手狭になったため明治七年(一八七四)には西区江之子島に移転し、明治八年(一八七五)ここに大阪博物館が開設された。(図②参照)大阪博物館はその後



図①

大阪裁判所となり、明治元年(一八六八)五月には大阪府庁となった。しかし、この府庁舎も手狭になったため明治七年(一八七四)には西区江之子島に移転し、明治八年(一八七五)ここに大阪博物館が開設された。(図②参照)大阪博物館はその後

明治十二年(一八七九)に公立大阪博物館、明治十七年(一八八四)に府立博物館と名称を變え、同年十一月に本格的な動物展示場の付属動物檻を設置拡充した。この本格的な動物舎ができる以前の明治十五年(一八八二)に東京博物館からスイギュウを借受け、ヒツジ、シカ、イノシシ、タヌキ、クマ、カモ、アヒル、オシドリ、コガモ、ツル、クジヤク、ハト、インコ、フクロウ、タカ、ワシなど八〇〇〇九〇点が展示されていた。当時は外国産の動物は少なく、日本産動物を中心に収集展示していた。住友家では明治三年(一九〇〇)三月に須磨別邸で飼育していたガン、ハクチョウ、オシドリ、アヒルを府立大阪博物館に寄付したと記録が残っており、また、明治三十七年(一九〇四)二月、住友家茶臼山別邸で飼育のタンチョウ一羽を府立大阪博物館に寄付と記録がある。



図②

なお、博物館では明治三十五年(一九〇二)に翌年三月から始まる内国勸業博覧会を見越して動物展示の拡充予算を計上し、内国勸業博覧会終了後、博覧会で展示していた余興動物園の殆どを買取り内容の充実を図った。余興動物園にはゾウ、トラ、ヒョウ、クマ、オオトカゲ、ヤマアラシ、センザンコウ、ワニなど外国産の動物が特色で博物館付属動物檻が飛躍的に充実し人気を呼んだ。

(次号 後編につづく)

元 天王寺動物園長 中川 哲男

(獣医師・学芸員)